

「ものをこわそう！」

小学校高学年・中学校向き、8時間

教師向けガイドブック

はじめに 全体を通じた指導のポイント

- ・この単元では、子どもたちの創意工夫を生かすことが重要な課題である。そこで活動の意欲をなるべくだせるように教師からの指示的な働きかけは慎むようなことが必要です。
- ・発表会の進行を調整して、子どもたちの活動と意見の交流ができるようになることが大切です。普段から1分間スピーチなどを行い自分の意見を言うトレーニングが大切です。
- ・子どもたちには、たくさんの無駄なものがあることや環境にこれらのものがどのように悪影響をあたえるのか気づけばオープンエンドの活動を広げていってもいいでしょう。
- ・「何を使ってこわすの?」「どうやって実現するの」などの言葉がけで子どもたちの活動を明確化してやる支援が必要でしょう。

各ステップにおける指導のポイント

Step 1 身の回りにあるこわしてみたいものの中身を見てみたいものを考える。1時間

- 身の回りにある、中身を見てみたいものを考える。
 - ・普段からいろんなところに興味を持たせるために、気づきを発表させる活動を日常的に朝の会、帰りの会などを利用してトレーニングをしておくといよい。
- こわす対象を集める計画をたてる。
 - ・どのようなところから集めてくるのかを考えさせるのが大切です。生活力のある子はいろいろなところでもらってくるので教師側も地域の人たちにきちんとコネクションをしておくことが大切です。

Step 2 こわす計画をたてる(1時間)見通し活動

- こわすための道具を考え入手可能かを検討する。(道具の選択)
 - ・普段はこわしてはいけないと言われているので、是非「こわす楽しみ」を感じさせることが大切です。ですから、子どもたちの気づきやモラルに対する押しつけがましい指導はさけるべきです。
- こわした後の処理をおおまかに考える。
 - ・こわす活動を通して、ゴミ問題や資源問題に気づくようにしましょう。また、無理に気づくように持っていくより、気づかなければそれでいいぐらいの気持ちで取り組んでください。

Step 3 ものをこわす。(2 時間) 試行錯誤

- こわす道具を選び、どうすれば分解できるか考えながら実行する。
 - ・無理にすべてもわさなくてもいいことを徹底しましょう。班の構成は、テーマ別に決めるのを優先し人数の配分や教師の都合によって決定しない方がよい。班も固定的なものより、途中で組み直しをしてもいいくらいの柔軟な姿勢で対応しましょう。ものをこわす段階からなぜするのかをしっかりと意識化させ、みんなの前で意見を発表することをきちんと伝えておきます。
 - 内部の仕組みを調べながらこわす。
 - ・こわすのをどの時点でやめるか判断する。
- 子どもたちに時間と壊れるものかどうかの見極めを自分たちで取材したり調べたりして判断をさせるようにしましょう。教師が止める場合もきちんと情報を与えて置くことが必要です。できれば、第3者に意見をいってもらうのがいいですね。

Step 4 こわしてわかったこと体験したことを発表し後の処理などを話し合う。(2 時間)

- 感想やわかったことをまとめ発表の準備をする。(準備)
 - ・このカリキュラムでは、情報の発信までのサイクルを体験することに重点が置かれています。単に、こわすだけでなく自分の思いがもてる活動時間を保証します。
- 発表を聞き、自分たちの活動と比較しながら意見を交換する。
 - ・本単元の目的は、子どもたちが体験したこと知り得たことについて自分の意見や考え、主張を持つことを重視するのであって、各自がまとめたことを全員一律に理解する必要はないので無理に知識理解にはしらないよう、効果を短絡的に求めないようにしましょう。

Step 5 こわした後の処理を考え、実行する。(2 時間)

- こわした後の処理の仕方を具体的に話し合う。
 - ・処理の仕方を指示するだけでは、子どもたちに環境問題やゴミ問題を意識させることはできません。 **せつかく時間をかけてやるのですからじっくり待つことも必要です。**教師は子どもたちのために活動の時間をひねり出す役目であると認識しましょう。

<こわすものの例>

- ・中には危険なものや**毒物**が含まれるものもあるので十分に注意をすることが必要です。